山田宏のタックルニュース
新年号
1月1日
平成31年
発行
山田宏よい国後援会
機関紙
自民党

「生涯を通じた歯科健診」の法制化を

参議院議員 山田宏

皆様には新しい年をお元気にお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。本年もどうかよろしくお願いいたします。

平成30年10月4日 辞令交付記念撮影（官邸）

「己亥」は「乱れを正す」年

昨年の「戊戌（つちのえ・いぬ）」の年は、どちらの字にもクサカンムリをつければ「茂」で、「繁茂」の年。発展の一方で陰りや乱れ（矛盾や問題）も生じる年でした。

今年は「己亥（つちのと・い）」。「己」は「整える」で、昨年までに生じた「乱れを正す」年です。そして「亥」は木偏をつけると「核」で「勢い」を示すので、イノシシのような「勢い」を正しい方向に向ければよいが、間違った方向にいくと、翌年の「庚子（かのえ・ね）」、さらに翌年の「辛丑（かのと・うし）」が、大変「辛い」年となるので、今年はとても大事な年になります。

歯科に政策の重心が移ってきた

昨年の「骨太方針2018」では、一昨年に引き続き「口腔の健康は全身の健康にもつながる」として「生涯を通じた歯科健診の充実」とともに、「口腔機能管理の推進」の対象を「入院患者や要介護者」から「国民に対する」と拡大し、「地域における医科歯科連携の構築」も新たに加え、さらに充実した内容で歯科の重要性が記されました。合わせて「歯科保健医療の充実・強化」のための予算も、2年前の4億2900万円から今年度は7億6300万円に、そして来年度も8億円と確実に伸びてきています。

また、初めて「介護予防（フレイル対策も含む）」も「骨太方針」に記され、それには「運動、口腔、栄養等」が重要と、介護予防としての歯科口腔医療にも脚光が当たり始めました。このことは、皆保険制度を維持するために疾病や介護の予防へ国の政策の重点化が必須となってきたこと、国民の中でも健康づくりとしての歯科の重要性への認識が高まってきたことの証左と思います。

さらに昨年11月には、首相の諮問会議である未来投資会議の「経済政策の方向性に関する中間整理」でも、「重症の歯周病を放置すると、糖尿病が発症する可能性がある」として、「現在10歳刻みで行われている歯科健診の機会の拡大、保健指導の充実とともに、歯科受診が必要な者については歯科医療機関への受診を促すなどの方策を検討する」との記述が初めて入りました。

「国民生涯歯科健診」の法制化に挑む

平成29年3月発表の徳島県後期高齢者医療連合会の調査報告書では、定期的に歯科健診を受けている高齢者の年間医療費は、歯科健診をしていない高齢者と比べ歯科医療費は1・7万円多いが、医療費は11・7万円、介護費18・8万円少なくなるとしており、歯科健診が高齢者の疾病予防や介護予防に大きな影響を与えることが、ここでも証明されています。

そこで今年は、「歯科口腔医療勉強会」に参加している40名以上の議員や、志を同じくする多くの議員とともに、骨太方針に2年連続記述されている「生涯を通じた歯科健診の充実」という国の方針をさらに後押しするため、「国民生涯歯科健診」を推進する新たな議員立法に是非取り組んでいきたいと考えています。

変革しつつ、2つの「保障」を守り抜く

さて昨年10月の内閣改造で、私は防衛大臣政務官の重責を担うことになりました。先月には、これから10年間の防衛計画として新しい「防衛大綱」が閣議決定されましたが、中国や北朝鮮の動きなど急速に変化するわが国周辺の環境に対して、「安全保障」のあり方も大きく転換していくことになります。

またわが国が初めて経験する人口減少社会と少子長寿化の中で、これまで当然のことと思われてきた国民皆保険制度などの「社会保障」も、そのあり方が厳しく問われてくる大きな転換点にあります。

戦後70年以上にわたって、私たちが当然のことと考えてきた「安全保障」と「社会保障」。この国民の安全と安心の基盤となる2つの「保障」を、これからの時代に合わせて変革しつつ守り抜くことこそ私の使命と心に定めて、今年もしっかり働いてまいります。

歯科口腔医療勉強会 メンバー

相談役	衆議院議員	田村　憲久
相談役	参議院議員	関口　昌一
相談役	参議院議員	石井　みどり
相談役	参議院議員	島村　大
相談役	衆議院議員	渡辺　孝一
相談役	前衆議院議員	比嘉　奈津美
相談役	衆議院議員	白須賀　貴樹
顧問	衆議院議員	岸　信夫
座長	参議院議員	山田　宏
事務局	衆議院議員	長尾　敬
	衆議院議員	上野　宏史
	衆議院議員	大串　正樹
	衆議院議員	岡下　昌平
	衆議院議員	小倉　将信
	衆議院議員	小田原　潔
	衆議院議員	鬼木　誠
	衆議院議員	木村　弥生
	衆議院議員	古賀　篤
	衆議院議員	小林　鷹之
	衆議院議員	斎藤　洋明
	衆議院議員	佐々木　紀
	衆議院議員	繁本　護
	衆議院議員	田中　英之
	衆議院議員	田畑　毅
	衆議院議員	田畑　裕明
	衆議院議員	中谷　真一
	衆議院議員	根本　幸典
	衆議院議員	船橋　利実
	衆議院議員	堀内　詔子
	衆議院議員	本田　太郎
	衆議院議員	三ツ林　裕巳
	衆議院議員	山田　賢司
	衆議院議員	和田　義明
	参議院議員	磯﨑　仁彦
	参議院議員	井原　巧
	参議院議員	大野　泰正
	参議院議員	上月　良祐
	参議院議員	酒井　庸行
	参議院議員	末松　信介
	参議院議員	中泉　松司
	参議院議員	丸川　珠代
	参議院議員	山下　雄平

平成30年12月11日現在　以上42名

これまでの歯科口腔医療勉強会の講師とテーマ

開催日		講師（敬称略）		テーマ
第1回	平成28年11月7日	高橋 英登	日本歯科医師連盟会長	これからの歯科医療の目指すところ
第2回	平成29年2月13日	花田 信弘	鶴見大学歯学部探索歯学講座教授	日本人が「むだ死に」し続ける理由
第3回	平成29年4月10日	米山 武義	米山歯科クリニック医院長	超高齢社会における口腔医療時代の夜明け!!
第4回	平成29年6月12日	菊谷 武	日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック	いつまでも口から食べるためにー歯科果たす役割ー
第5回	平成29年9月11日	丹沢 秀樹	千葉大学大学院医学研究院口腔科学講座教授	これからの医科・歯科医療に関する一考察ー口腔機能管理の歩みと意義、多職種連携の重要性、課題と展望ー
第6回	平成29年11月13日	鳥山 佳則	東京歯科大学教授（歯科医療管理学）・元厚生労働省医政局歯科保健課長	診療報酬改正に向けて
	平成29年12月13日		日本歯科衛生士連盟役員との意見交換会	
第7回	平成30年2月5日	深井 穫博	埼玉県歯科医師会常務理事	歯科医療・口腔保健は社会保障制度の安定化に寄与する
第8回	平成30年4月2日	鳥山 佳則	東京歯科大学教授（歯科医療管理学）・元厚生労働省医政局歯科保健課長	指導・監査関係
第9回	平成30年5月21日	星 旦二	首都大学東京名誉教授	なぜ、かかりつけ歯科医がいると長生きなのか
第10回	平成30年10月15日	河原 英雄	歯科医師・医学博士	噛み合わせは人生を変える
第11回	平成30年11月26日	齋藤 隆夫	デンソー健康保険組合常務理事	データDEコラボー健保組合だからできる歯科口腔衛生への取り組み
第12回	平成31年1月28日（予定）	小松本 悟	足利赤十字病院　院長	日本における医科歯科連携の現状

自衛艦旗を「降ろせ」という、無礼かつ非常識な韓国

昨年10月に韓国済州島で開催された国際観艦式に際し、韓国政府がわが国の自衛艦旗である「旭日旗」の掲揚自粛を求め、海自が護衛艦の参加を取りやめたことはまだ記憶に新しい。

平成24年度自衛隊観艦式
http://www.mod.go.jp/msdf/formal/kankan/2012/gallery/20121008.html

国籍を示す自衛艦旗としての「旭日旗」は、自衛隊法で定められ掲揚を義務づけられているものです。また国際法上も軍艦がどこの国に属するかを示す外部標識に当たるもので、これまで広く国際社会で認められ、中国も含めどの国からもこのような扱いを受けたことはありませんでした。この韓国政府の行為は、国際常識から見ても常軌を逸したものと言えます。

これは、最近一部の韓国の学者が「旭日旗は、ナチス旗と同じ『戦犯旗(このような用語はそもそも存在しない)』だ」という根拠のない感情的な主張をし始めたことが背景にあります。しかし、ナチス旗の『鉤(かぎ)十字』はナチス党という党の党旗で、いわば共産党の赤旗と同様のものです。一方ドイツ国軍は、戦前も戦後も「鉄十字」が軍の主権のシンボルと定められ、わが国も「旭日旗」を戦前戦後通して軍艦旗として定め、どちらも国際社会から正当に認知されてきているのです。

どこの国でも、軍旗は軍のシンボルとして最大の尊重を受け、軍の誇りなのです。それを自分勝手な論理を振り回して、貶めようとする行為は国際法上も許されない行為であり、わが国が厳重抗議をしたのは当然です。いま韓国は「旭日旗」だけでなく、そのように見えるデザインにさえも、世界中で「旭日旗は戦犯旗だ」と抗議活動を行っていますが、わが国としても、その一つ一つに対してしっかり説明をして、このような不当な主張がまかり通っていかないようにしていきます。

ドイツ軍は戦前戦後も同じ「鉄十字」

戦前：ドイツ戦闘機

戦後：ドイツ戦闘機

山田宏（やまだ ひろし）プロフィール

参議院議員（自由民主党）
防衛大臣政務官 兼 内閣府大臣政務官
所属委員会
外交防衛委員会
沖縄及び北方領土に関する特別委員会

昭和33年（1958年）1月8日生まれ（61歳）
京都大学法学部卒業。松下政経塾第2期生。
東京都議会議員（2期）
衆議院議員（2期）・杉並区長（3期）

『世界に誇れる日本』を創るため、
山田宏は日々活動しております。
そのためには、皆様のご支援が必要です。
ぜひ、山田宏の活動を支えてください。

山田宏を応援してください

●「山田宏よい国後援会」にご入会ください。
会費：年額 10,000円
●自由民主党（山田が支部長を務める「自由民主党東京都参議院比例区第二十二支部」）党員になってお支えください。
満18歳以上、日本国籍を有する方が対象です。
党費：年額 4,000円（家族党員は2,000円）
⇒ご協力いただける方は、事務所までご連絡ください。
・機関紙を送付
・イベントのご案内
・メールマガジンの配信
・国会議事堂・議員会館などの見学の受付などの特典があります。

山田宏の日々の活動は、ホームページ、フェイスブック、ツイッターでご紹介しています

山田宏公式サイト：**www.yamadahiroshi.com**
山田宏公式Facebookページ：
https://www.facebook.com/yamadahiroshi.page/
山田宏公式ツイッター：**@yamazogaikuzo**

⇒ぜひチェックしてください！
上記などお問い合わせはこちらにお願いいたします。

山田宏 国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館1205号室
Tel.03-6550-1205 Fax.03-6551-1205

損傷がすすむ「旧軍用墓地」、国の責任で修繕
～「軍人墓地の乱れは、国の乱れ」と財務省に要請

昨年9月の台風21号で、大阪市にある旧真田山陸軍墓地（国有地）が、倒木や墓石の倒壊など大きな被害を受けたのに、その復旧が滞っていることが問題となりました。

山田宏は「軍人墓地の乱れは、国の乱れ」と考え、9月27日財務省に対して、速やかに旧真田山陸軍墓地の復旧策をとるよう申し入れると同時に、あわせて全国86か所ある旧軍用墓地の状況を調査するよう要請しました。

その結果、旧軍用墓地は旧陸海軍から旧大蔵省が引き継ぎ、そのうち44か所は財務省の所管で地方自治体に無償貸し付けをし、残りの42か所は地方自治体等に所有権を移譲しており、真田山も含め国所管の墓地で修繕を要する墓石や慰霊碑、そし納骨堂などが多数あることが判明しました。

そこで国では今後、修繕を必要とする工作物全てについて、今年から計画的に修繕するため、これまで年間300万円程度の予算を、5年間で5億円と大幅に拡充することになりました。旧真田山陸軍墓地については先行して修復していきます。

真田山陸軍墓地維持会HPより

山田宏よい国後援会 歯科部会にお入りください！

「骨太方針2017」に引き続き、昨年の「骨太方針2018」でもさらに充実した内容で歯科の重要性が記述されました。

今後も「予防医療は口の健康から～歯科口腔医療の充実が全身の健康に繋がる」ことが広く深く浸透するよう、国政の場で働いてまいります。

ぜひ、ご入会いただき応援いただけますようお願い申し上げます。

先生方の現場の声をお聞かせください。

山田宏を報告会・デンタルミーティングにお呼びください

国会見学などお気軽にお問い合わせください！

ご連絡は、
山田宏国会事務所
03-6550-1205
にお願いいたします。